

○旭岡勝義（社会インフラ研究センター）

はじめに

1. 新産業形成の背景
2. 新産業形成の条件
3. 新産業の構造
4. 新産業の成立基盤

最後に

はじめに

我が国の産業は、今新たな産業の形成の転換期にある。

戦後、工業化社会、情報社会を経て、今後の知識社会の構造変化に向けて、急速な準備が必要である。しかし、バブル崩壊後新産業への転換は遅れた。

産業の後ろ向きな処理を終了し、景気回復の基調の中で、高付加価値で、国際的な競争力を持つ産業創造の重要な時期である。

1. 新産業形成の背景

我が国の産業形成の推移を見ると、戦後基盤産業の形成を基本として、官民一体となつての語術導入、技術開発、効率的生産システム、資金の投資等育成のプロセスは成功裡に推移したと言える。工業化社会の中で欧米に追いつく意図での産業形成を経て、民生消費財産業の国際競争力強化は、質の高い技術者及び労働者の存在の中で、世界に冠たる産業形成を果たした。その後情報化社会への転換等を基本にエレクトロニクスを核とする先端産業形成を経済成長プロセスの中で、実現してきた。バブル崩壊後の企業の低迷を通して、また、中国韓国等の急迫等によって、現在は新たな産業形成への重要な時期である。

現在の問題は、内的には

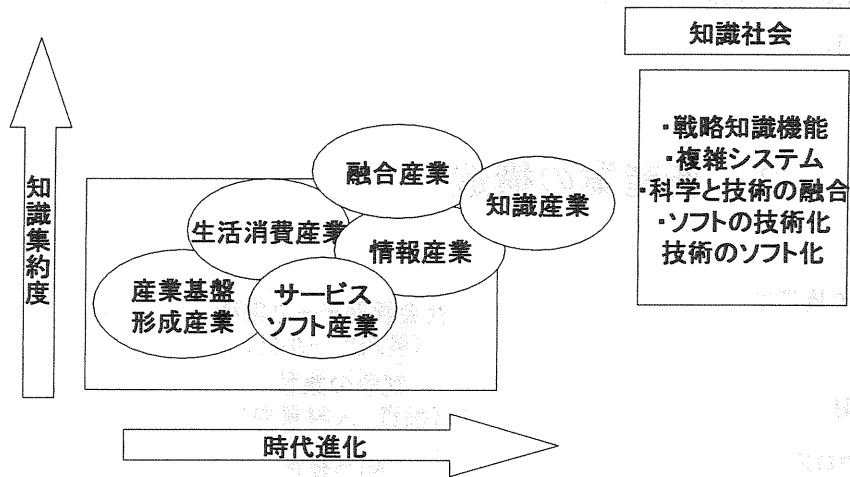
高齢化社会、財政の累積国債負担拡大、高社会負担体質、国内競争による低収益体質、ベンチャー企業の成長の鈍化、環境問題他、長期的な課題を抱えている。

外的には、

国際競争力の弱化、世界的な産業集積の脆弱性、融合技術及び融合事業開発遅れ、リーディング技術（ソフト、サービスを含む）システムの遅れ等新産業形成へのインパクトが少ない傾向にある。

これは、新産業としての「知識社会」基盤形成に国際的な選考の条件が稀薄と言う状況を呈している。

新産業構造

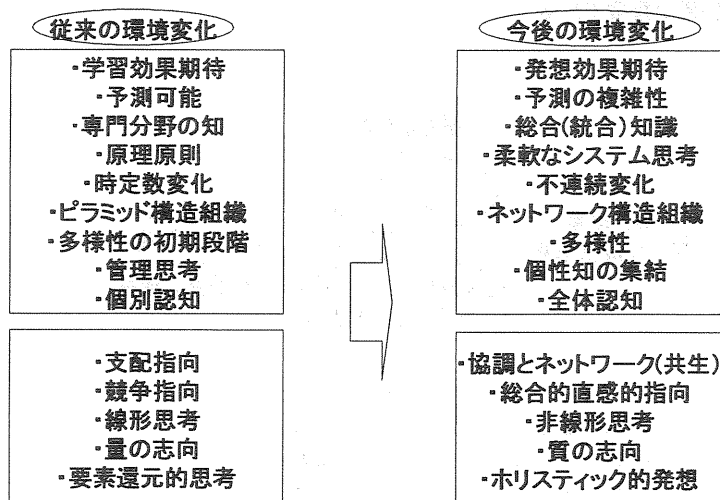


2. 新産業形成の条件

新産業の形成のためには、リーディング融合技術、サイエンスとマニファクチャリング、知識機能コンセプト集積、起業イノベーション、ネットワーク組織、新産業創生ファイアンス、経営人材流動化他が条件である。

特に今後の環境は、予測困難、不連続、融合知、非線形思考等が中心になって来ると思われる。

(参考)環境認識

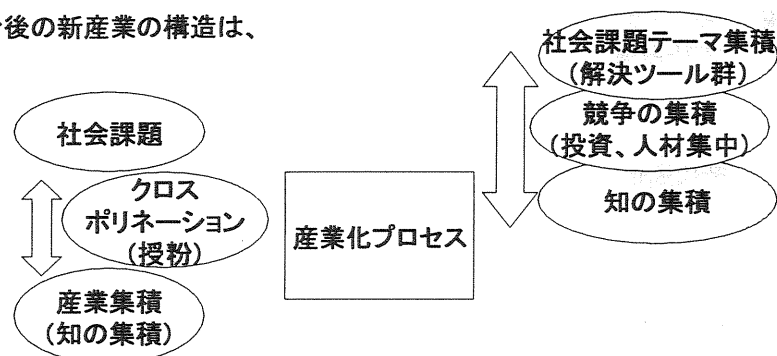


2. 新産業の構造

新産業の構造は、社会課題と産業集積をクロスポリネーションする仕組みの中で、知の集積と競争の条件集積及社会課題テーマ集積によって形成への動機付けの行なわれる産業化プロセスが構造化される。

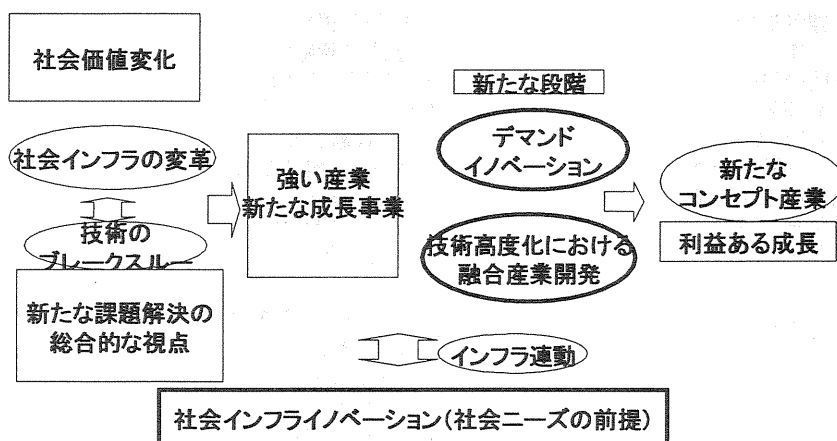
3. 新産業の構造

今後の新産業の構造は、



(参考) 事業戦略の新たな課題

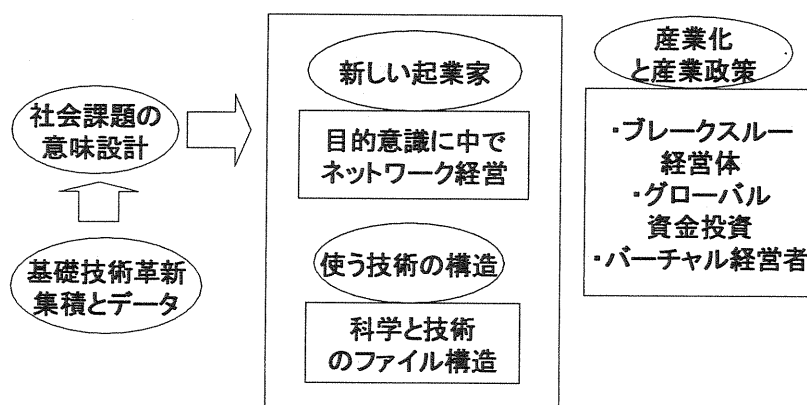
産業競争力は、社会インフラのイノベーションとの関連性が極めて強く、新たな仕組みや推進環境条件整備が重要である。



4. 新産業の成立基盤

新産業の成立基盤は、科学と技術の融合による新しい生産システムを応用し、社会課題の意味設計を行い、「知の集積」から最適な解決設計を行い、専門人材を組織を超えて終結し、生産の場を構築し、グローバルな経営と資金を活用できる基盤の形成がなされるところに存在する。

4. 新産業の成立基盤



この経営体は、現在の組織を核にした経営マネジメントとは、別のマネジメント構造であり、現在の延長上での産業育成ではなく、経営体と人材を産業基盤形成に必要な投資とファイナンスの基盤が形成される必要がある。

これは、知識集積と産業政策との新しいマッチングによって、可能になる。

「新産業創生機構」(仮)等の新産業政策を必要とするものでもある。

最後に

新産業の形成は、今後の我が国の経済基盤にとって、極めて重要な課題である。勿論現在の産業基盤との並存の中で育成する必要があるが、組織構造や投資構造及び人材構造は、従来の枠を大きく越えたものにならざるを得ない。

こうした新産業変遷への転換が、産業政策として望まれる。